

校長室より

二松学舎大学附属高等学校
校長 鶴飼教之

「二松から飛翔へ」～一期一会～

放課後の教室から

～今週の週訓「中間考査に全力を尽くそう」～

中間考査を目前に控えた放課後の校内には、いつも以上に集中した空気が流れています。2階から4階の各学年の教室をはじめ、5階の自習室や図書館には、多くの生徒が残って学習に励む姿が見られました。静かに問題集に向き合う生徒、友人同士で教え合いながら確認を進める生徒、時には先生に質問をする姿など、それぞれが自分の課題と真剣に向き合っています。

特に1・2年生では、放課後学習支援「松ぼっくり」に多くの生徒が参加しています。5月11日（月）から15日（金）までの5日間で、延べ835名が参加したとの報告がありました。期間中には数学・英語・理科などの教科別イベントも実施され、講座によっては250名近い参加者が集まるなど、大変な盛況ぶりでした。また、大学5号館では大学生メンターに質問しながら自習に取り組む姿も見られました。分からないことをそのままにせず、自ら学びに向かう姿勢は大変頼もしく感じます。

一方で、数人の仲間同士がそれぞれ異なる教科に取り組みながら、互いに刺激を受け合って学習している様子も印象的でした。学び方は一人ひとり違っても、前向きな思いは共通しています。

明日からは本年度最初の定期考査が始まります。考査は単に点数を競うものではなく、4月からの学習を振り返り、自分自身の理解度や課題を確認する大切な機会です。努力の成果が十分に発揮されることを期待しています。



「授業公開週間」

～日常の学びを保護者の皆さまへ～

5月11日（月）から16日（土）までの5日間（水を除く）、今年度第1回目となる授業公開を実施しました。これは、生徒たちの日頃の学習の様子や学校生活の一端を、保護者の皆さまに直接ご覧いただく機会として行っているものです。

平日はお仕事等でご多用の中でも連日10名を超える方々にご来校いただきました。そして最終日の土曜日には、122名の皆さまに参観いただき、校内は大変活気に包まれました。

参観の様子を見ていますと、廊下越しに静かに教室を覗き込む方、教室後方からじっくり授業をご覧になる方など、それぞれの形で生徒たちの学びを見守ってくださっていました。休み時間には、生徒に優しく声を掛けたり、友人関係や学校生活の様子を微笑ましく見守ったりする場面も見受けられ、学校と家庭とのつながりを改めて感じる機会となりました。

生徒たちにとっても、普段の授業に真剣に取り組む姿を保護者の皆さまに見ていただくことは、大きな励みになったことと思います。特別な行事だけでなく、日々の積み重ねこそが学校教育の中心であり、生徒たちの成長の土台です。今後も「開かれた学校」を目指し、授業公開をはじめとした様々な機会を通して、生徒たちの日常の姿を発信してまいります。

なお、今回の実施にあたりましては、父母の会役員の皆さまを中心に受付業務等にご協力いただきました。ご多用の中、支えてくださったことに心より感謝申し上げます。



教育実習始まる ～母校で学ぶ、“教える”ということ～

今週から、本校では5名の教育実習生を迎え、3週間にわたる教育実習が始まりました。近年、全国的に教員志望者の減少が課題となる中、教職への熱意を持った学生たちが本校で実習に臨んでくれることを大変嬉しく思います。

今回の実習生は、いずれも本校の卒業生です。かつてこの校舎で学び、部活動や学校行事に励み、多くの思い出を重ねてきた先輩たちが、今度は「教える立場」として戻ってきました。少し緊張した様子も見られますが、その眼差しには後輩たちに真摯に向き合おうとする熱意が感じられます。



生徒の皆さんにとっては、年齢の近い先輩でもあり、進路や大学生活について気軽に相談できる存在かもしれません。一方で、実習生にとっては、授業づくりや学級運営、生徒との関わりなど、教師という仕事の責任とやりがいを実感する貴重な3週間になります。教育実習生の姿から、生徒の皆さん自身も将来の進路や社会との関わりについて考えるきっかけを得てくれればと思います。